



地域おこし協力隊OB 小川泰伸さん 子どもの頃に抱いた、 まっすぐなワクワクを忘れない

大分県出身。「旅と旅人が大好き」。2018年6月から2年半、地域おこし協力隊「交通対策プロジェクト」業務に従事。南阿蘇鉄道の仕事にも携わり、「地域の復興に関われてうれしかった」と振り返ります。現在は、久石地区でバイクショップ、宿、カフェを経営。

取材・文・撮影/家入明日美

コドナヒュッテ&カフェ
(Instagram)



左・中/できるところは手作業でつくり上げたカフェ。「村のキャンプ場STAY HAPPYのオーナー、渡邊賢司さんにたくさんアドバイスをいただきました。本当に感謝しています」と小川さん。週末は特に、ツーリングで立ち寄るライダーで賑わいます。
右/カフェから眺める阿蘇五岳。晴れた日は展望デッキで過ごすのもおすすめです。

皆さんは子どものころ、何が好きでしたか？ 小川さんの場合、興味の対象は一貫して「冒険と旅」だったそう。テレビに映る、世界のどこかにある砂漠や荒野に行くバイク。それが、「ラリー」と呼ばれる競技だと知ったのは、ずっと後のことでした。

憧れが高じて、プロのラリー選手のサポーターとして海外遠征に同行したり、関東でバイク店を経営するまでに。そんな小川さんが妻と共に南阿蘇村に移住したのは、50歳のとき。「決め手はこの五岳の眺め。5年経ったいまも毎朝感動しています！」。

移住と同時に地域おこし協力隊に着任し、活動を通して地域のさまざまな人と交流を深めた小川さん。培った縁がつながり、自宅敷地内にバイクショップを、空き家を活用してゲストハウスを開業。いずれも任期中に成し遂げてしまったのですから、驚かされます。常

に本気の対話を大切にしてきた小川さんだからこそ、必要なタイミングで、鍵となる人や場所と出会うことができたのかもしれませんが。

そして昨秋、自宅横にオープンさせたのがライダーカフェ「コドナカフェ」。コーヒーと軽食をお供に、五岳の絶景を味わってもらおうというコンセプト。ここで気になるのが、ちょっと不思議な響きの店名。小川さんいわく、「子どもの心を失くさず、真剣に遊ぶ大人という意味。自分もそうありたいし、そういう人たちと関わっていききたいという思いを込めて」。

いつの間にか、表面を取り繕うことを覚えてしまった大人の自分。でもコドナカフェで、五岳を眺めながら小川さんが淹れてくれたコーヒーを口にしているときは、ためらいなく「大好き」や「楽しい」を表現できた子どもの頃に戻るような気がします。



好きだからこそ、とことん真摯に研究を重ねて開発した「コドナバーガー」と「スパイスカレー」。スイーツのテイクアウトも人気。コーヒー選びに迷ったら、おすすめを聞いてみましょう。